

平成 18 年 7 月 14 日

各 位

中期経営計画進捗状況（連結）

会社名 マルカキカイ株式会社
代表者名 代表取締役社長 釜江 信次
(コード番号 7594 東証・大証2部)
問合せ先 常務取締役管理本部長 森 康明
電 話 (072) 625 6551

当社は 2003 年 12 月から 3 ヵ年の中期経営計画に取り組んでおります。3 年目の 2006 年 11 月中間期の進捗状況は以下の通りであります。今上期の実績と下期の計画を踏まえて 2006 年 1 月 13 日に発表した 2006 年 11 月期の予想を上方修正いたします。

過去 2 年間の業績が当初計画を大きく上回ることが出来た要因としては、主力部門の産業機械業界の、中でも自動車業界ユーザーの設備投資が予想を上回る好調さを維持していることと、当社の豊富な海外拠点を有する強みがユーザーに支持されていることが挙げられると考えております。

記

1. 中期基本戦略

アジア取引の拡大

アジア市場を重点市場の一つと捉え、好調なタイ、インドネシアに加え中国の拠点を拡大し取引拡大をはかる。

アメリカ市場における既存商品のシェアアップ、新規商品の投入と日系企業の開拓。建設機械部門において国内販売、輸出、レンタルの連携強化による独自性を発揮した営業の展開。

国内と海外拠点相互の情報の飛躍的な増加。

2. 「事業別・市場別戦略と施策」及び「3 年目の進捗状況」

(1) 産業機械部門

日本市場

主要商品の販売拡大

- ・ 工作機械を主体に拡大をいたしました。(前年同期比・工作機械 34%増)

ユーザー数の拡大

- ・ 自動車関連企業を中心に海外進出企業の新規開拓を進めております。

海外メーカーとの取り組みを強化

- ・ 台湾メーカーの工作機械・鍛圧機械を中心に推進中であります。特に台湾メーカーの中国工場から仕入れて中国のユーザーに販売する商売が増加いたしました。

子会社ソノルカエンジニアリング(株)の 2006 年 11 月期、売上高 23 億円達成のためのユーザー基盤構築の完全実現をはかる。

- ・ 今年度売上高は大手自動車関連からの受注により 16 億円を計画しております。上期は約 6 億円の実績に留まりましたが、下期に大口の納入があり、中期計画の売上高目標の達成は難しいものの、今年度の目標の達成は可能であります。

首都圏市場を重点的に拡大する。

- ・ 今上期の首都圏市場の売上高は、海外進出企業を中心に新たなユ - ザ - が増加し、前年同期比 57% 増となりました。首都圏市場の国内市場に占める比率は前年同期の 20% から 26% に増加いたしました。今後も拡大が期待できる市場となつてまいりました。

アメリカ市場

主力商品の販売をセールス、サービス体制の強化により増加させ、売上を 3 年間で 32% 伸ばす。(実績では 2 年間で 48% 増加)

- ・ 今上期は工作機械の売上高が好調に推移し、前年同期比売上高が 44% 増加いたしました。

新主力商品を育成する。

- ・ 新商品として採り上げたパイプベンダーの今上期の売上は、前年同期を 10% 下回りました。引き続き自動車関連ユーザーの開拓に努めてまいります。

日系企業の開拓

- ・ 日系自動車関連企業を中心に、新規開拓を進めており実績が挙がっております。

アジア市場

東南アジアは、タイ・インドネシアのビッグマーケットの営業を、本社から支援体制を強化してユーザーの拡大をはかる。

- ・ 日系企業を中心に、新規ユーザーの拡大がはかられています。インドネシアの今上期は、現地の 4 輪・2 輪自動車の販売がガソリン価格の高騰などにより低迷したことから、ユーザーの設備投資の見直しがあり、苦戦いたしましたが、2 輪自動車の販売は回復しております。

中国の営業強化により、2006 年 11 月期の中国市場売上高 25 億円を達成する。

- ・ 広州・上海・天津の 3 拠点による営業展開をはかり、今上期は前年同期比 131% 増の約 14 億円(ユーザーが日本で購入し、中国に輸出した金額を含む)の実績が挙がりました。今上期に中国の 4 番目の拠点となる駐在事務所を武漢に新設するなどの営業強化策をとってきた結果、受注は日系関連企業を中心に積み上がってきており、当初売上計画 25 億円を達成できる見込みであります。

フィリピンでのサービス事業の展開

- ・ 自動車関係の日系ユーザーに対して、サービス事業も加えた機械販売とサービスのトータル営業の展開を図るための体制を構築すべく、サービスマンを採用してスタートし、一部サービスを受託いたしましたはやや遅れております。

(2) 建設機械部門

中古建機輸出の拡大

- ・ 昨年は中古建機が品薄であり苦戦いたしました。今上期は前年同期比 58%増の 4.7 億円の実績が挙げられました。

レンタル部門の強化

- ・ 連結子会社ジャパンレンタル㈱の収益が引続き好調でありました。
- ・ 2006 年 3 月 1 日にマルカレンタルサービス㈱を当社に吸収合併いたしました。親会社の豊富な資金力と収益力を活かしてレンタル機械の設備投資を積極的に実施し、ユーザーの需要に応えることによって新規ユ - ザ - を開拓し、事業の拡大を図ってまいります。

主力メーカー・コベルコ製品をメインとし、その他の有力商品をサブとする販売体制を構築する。

- ・ コベルコ製品を軸に、コンプレッサー、発電機、部品等の少額商品の販売促進にも積極的に取り組んでまいります。

3. 中期経営計画の連結数値目標

(金額単位:百万円)

決算期 項目	2003 年 11 月期 実績	2004 年 11 月期 当初計画	2004 年 11 月期 実績	2005 年 11 月期 当初計画	2005 年 11 月期 修正計画	2005 年 11 月期 実績	2006 年 11 月期 当初計画	2006 年 11 月期 修正計画	2006 年 11 月期 本修正計画
	売上高	26,145	29,000	31,764	32,000	38,000	40,963	36,000	43,890
営業利益	585	810	1,048	1,000	1,500	2,035	1,200	2,192	2,290
経常利益	590	850	1,100	1,050	1,550	2,224	1,250	2,247	2,400
当期純利益	354	470	568	560	850	1,228	650	1,358	1,360
ROA (%)	2.9		5.2			9.1	5.0	8.0	8.0

部門別連結数値目標

(金額単位:百万円)

決算期 項目	2003 年 11 月期 実績	2004 年 11 月期 当初計画	2004 年 11 月期 実績	2005 年 11 月期 当初計画	2005 年 11 月期 修正計画	2005 年 11 月期 実績	2006 年 11 月期 当初計画	2006 年 11 月期 修正計画	2006 年 11 月期 本修正計画
	産業機械売上	21,446	23,970	26,179	26,667	32,267	35,491	30,464	38,160
同営業利益	1,256	1,390	1,554	1,605	1,910	2,434	1,820	2,640	2,764
建設機械売上	4,588	5,000	5,552	5,300	5,700	5,435	5,500	5,682	6,478
同営業利益	178	220	333	230	455	393	250	411	496
その他売上	110	30	33	33	33	36	36	48	47

(注)・「当初計画」数字は、2004 年 1 月 19 日公表の中期経営計画策定時の数字です。

- ・ 「修正計画」は 2006 年 1 月 13 日の計画、「本修正計画」は今般の修正計画です。
- ・ 部門別営業利益と決算上の営業利益との差異は、主に親会社管理部門に係る費用分。

以上